

授業科目 微生物学

【担当教員名】 尾崎 京子	対象学年	3	対象学科	臨床
	開講時期	前期	必修選択	必修
	単位数	3	時間数	45
【ディプロマポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	○	○
【概要・一般目標：G10】 ・微生物の生態について理解する。 ・微生物が人体に対し疾病を引き起こす仕組みを理解する。				
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 感染症の原因となる病原体の種類をあげ、系統だてて分類する。 2. 微生物に対する生体の防御システムについて概説する。 3. 感染と発症および感染源と感染経路について概説する。 4. 抗菌薬の種類および薬剤感受性検査と薬剤耐性菌について述べる。 5. 感染症予防対策について説明する。 6. バイオハザード対策の基本について説明する。 7. 代表的病原微生物の種名をあげ、それぞれの性状の特徴と引き起こされる疾病について列挙する。 8. 微生物検査の基本操作を述べる。				
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号 学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	微生物学総論 微生物学の歴史、微生物の分類			1 講義
2	微生物学総論 細菌の形態と構造			7,8 講義
3	微生物学総論 細菌の観察法と培養法			7,8 講義
4	微生物学総論 他の微生物、正常細菌叢			7,8 講義
5	微生物学総論 病原性と抵抗力			2,3 講義
6	微生物学総論 滅菌と消毒			5,6 講義
7,8	微生物学総論 化学療法とワクチン			3,4 講義
9	微生物学総論 現在の感染症の特徴			3,5 講義
10	微生物学総論 バイオハザードと感染症法			5,6 講義
11	細菌学各論 グラム陽性球菌			7,8 講義
12	細菌学各論 グラム陰性球菌			7,8 講義
13,14	細菌学各論 グラム陰性通性嫌気性菌、ビブリオ、エロモナス			7,8 講義
15,16	細菌学各論 グラム陰性好気性桿菌、微好気性らせん菌			7,8 講義
17	細菌学各論 グラム陽性好気性桿菌、抗酸菌			7,8 講義
18	細菌学各論 嫌気性菌			7,8 講義
19	細菌学各論 スピロヘータ、レプトスピラ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア			7,8 講義
20	病原真菌学、ウイルス学			7,8 講義
21,22	微生物学検査法			8 講義
23	薬剤感受性検査法			4,8 講義
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	臨床検査学講座 第3版 微生物学 / 臨床微生物学	岡田 淳 他	医歯薬出版	2012・5,800円＋税
参考書	臨床微生物検査 ハンドブック 第4版 メディカルサイエンス 微生物検査学	小栗豊子 大田敏子、金森政人、山口博之 他	三輪書店 近代出版	2011・5,000円＋税 2010・5,500円＋税
その他の資料				
【評価方法】 ・小テスト：20% 前期授業内に数回行う。授業欠席の場合は小テストは0点とする。 ・定期試験：80%		【履修上の留意点】 講義は教科書を中心に行います。新しい用語、菌名が多数出てきます。覚えなければならない内容は非常に多いので、講義に集中して下さい。私語や居眠り、欠席は固く禁じます。菌名は学名で覚えなければなりませんので、手書き練習を繰り返し行って下さい。毎回の復習は非常に大切ですので、欠かさずしっかりと行って下さい。参考書など数冊図書館に配備してありますので、有効に活用して下さい。後期の実習とあわせ理解を深め、知識と技能を確実に身につけてください。		